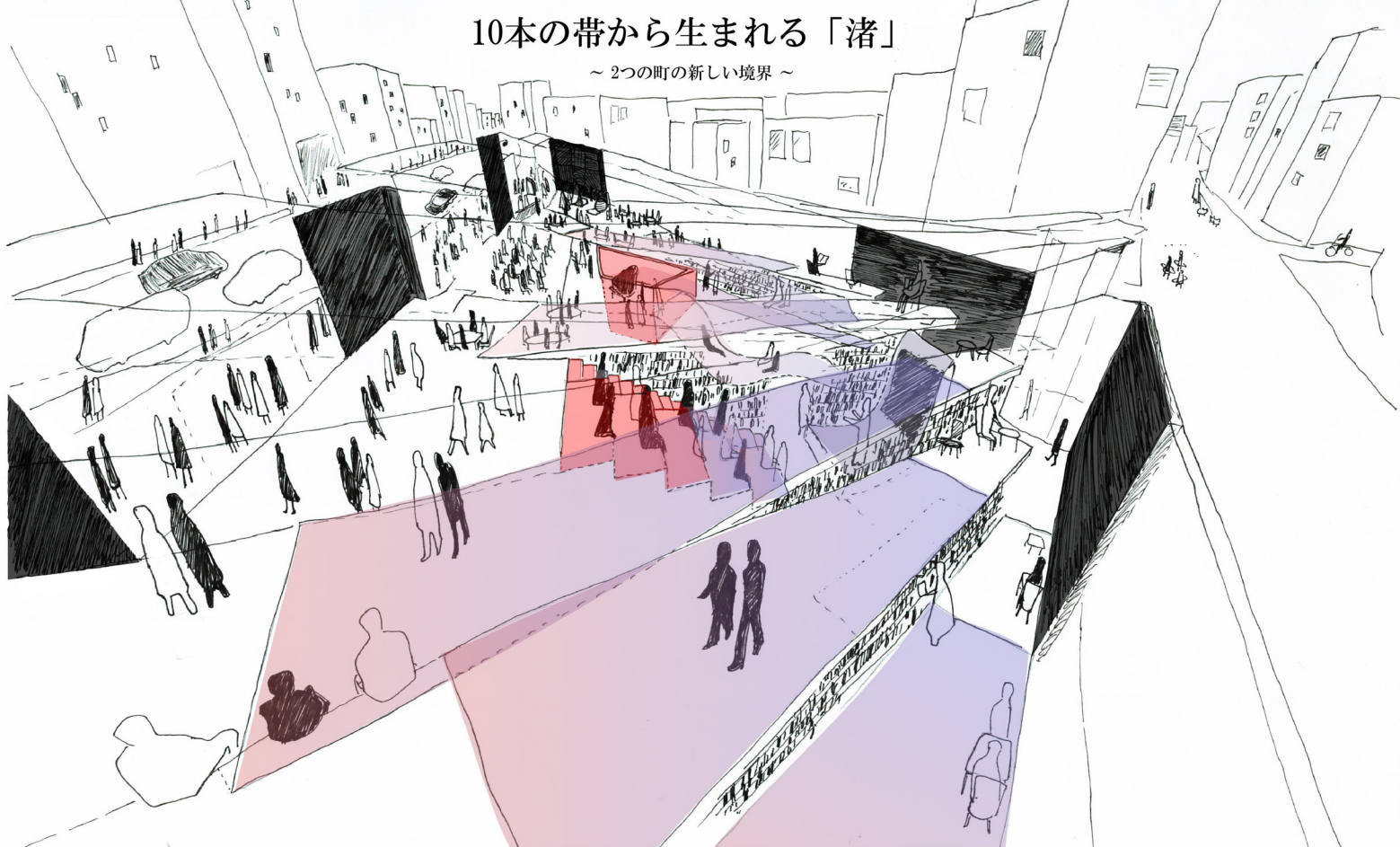


# 10本の帯から生まれる「渚」

～ 2つの町の新しい境界～



## I せめぎあう敷地

0 50 100 [m]

配置図 S-1/2000

住宅  
商業施設・公共施設

北側の閑静な住宅地と、南側の賑やかな繁華街に挟まれた敷地に、ラーニング・commonsを備えた図書館を計画する。

この時、二つの街の雰囲気衝突を和らげ、新しい境界を生み出すような建築が設計できないだろうか。

そこで、せめぎあいの緩衝帯、いわゆる「渚」のような性格を持った図書館を考える。

## 建築の構成

屋根  
固有の断面を持った複数の大屋根で構成される

外壁  
構造壁とガラスファサードが交互に連続する

10の「帯」

書架  
10の「帯」を支える構造の役目を果たす

床・広場

## II 緩衝帯としての「渚」を形成する、10本の帯

敷地にただ建築を建てただけでは、内部で衝突してしまう。

そこで、中央に余白を残しつつ、其々の町の雰囲気をふまえて敷地の南北に「賑やかなエリア」、「静かなエリア」をつくる。

そして、各エリアを10本の帯で結び、からまるような「渚」を形成する。

0～2.5m

本敷地は、住宅街側のほうが0～2.5mほど低くなっているため、帯はこの高低差を前提として形成される。

10本の帯は、各帯における二つのエリアの関係性を基に設計し、大きく6パターンの断面が存在する。

これらの多様な帯が並ぶことで、複雑な「渚」が生まれる。

1 スロープ  
一番シンプルな結び方。静か～賑やかなグラデーションが形成される。

2 崖  
二つのエリアの高低差が大きいため、行き来可能なスロープが形成できない。そのため互いのエリアの視線は重ならないが、声や気配は伝わる。

3 山  
高低差のない二つのエリアの間に、小さな山を作ることで、人々の行き来を控え、互いの干渉を和らげる。

4 洞窟  
二つのエリアを結びより分離させたい時に、二層構造によって、完全に上下を分離し、其々の帯圏を尊重する。即ち、吹き抜け内のアクティビティを覗きこむという行為を通じて、両エリアが一体化する。

5 谷  
それぞれのエリアの行き来が不要な帯において、間に吹き抜け(谷)を作ることで、両エリアが共通して注目するスポットを作る。

6 大階段  
二つのエリアの距離が短く、スロープで結びづらい帯。上層の賑やかなエリアから、下層の静かなエリアへ降りていく構造は、多くの人を静かな環境へと引き込み、多人数かつ静かな環境が求められる講義などのアクティビティに用いられる。

## III 10本の帯が生む、多様な学び環境をもつ新しい図書館

従来の図書館は、静かな環境が基本  
また個人での利用が多い  
→本図書館における「静かなエリア」

一方で、例えばカフェのような、少し賑やかな環境の中で一人ですごすのが好きな人もいる  
→本図書館における「渚」

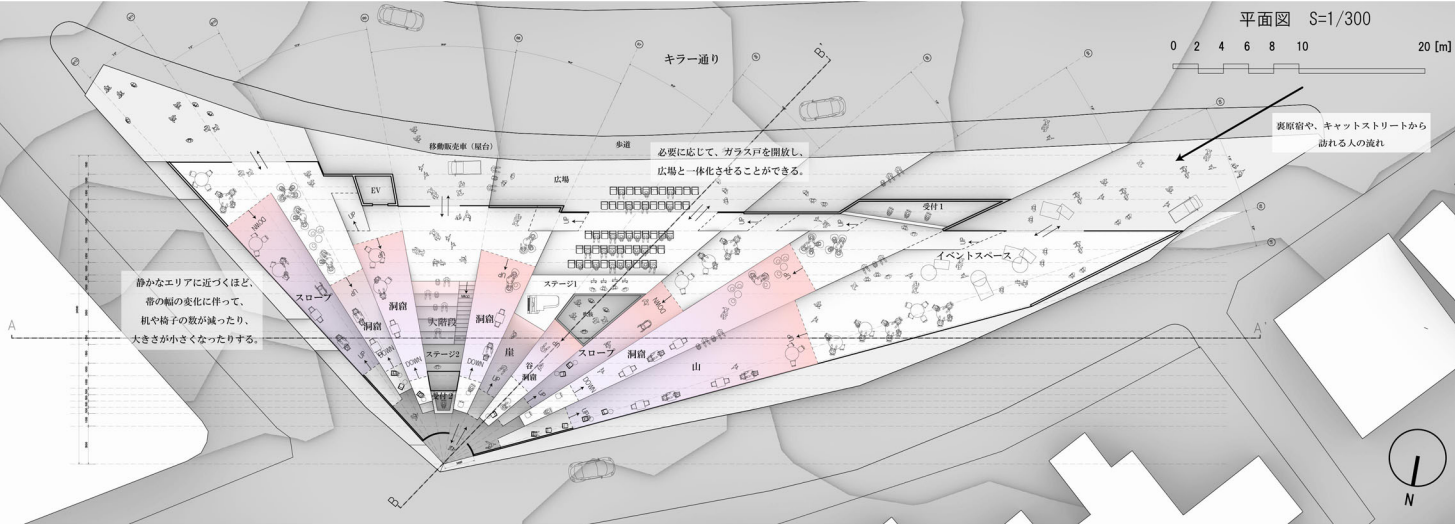
ラーニングcommonsなどで行われるグループ活動は、賑やかな環境を生む  
→本図書館における「賑やかなエリア」

多様な学び環境

賑やかなエリア、静かなエリア、そしてその「渚」である10本の帯で構成された本建築の形態は、静かな環境を基本とした従来の図書館よりも、多様な環境を形成し、**静かさ・賑やかさの観点において、実に多様といえる「学びの環境」に対するニーズに、柔軟に应答できるような新しい図書館のすがたを示しているのではないだろうか。**

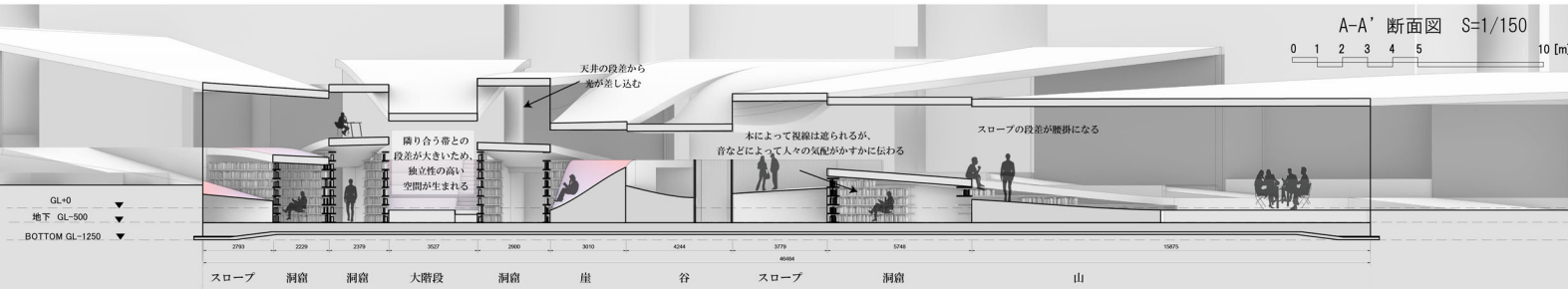
## IV 各エリアの人口量を調整する、放射状平面

敷地形状に合わせた放射状の平面によって、それぞれの「帯」の幅が、「賑やかなエリア」から「静かなエリア」に向かうにつれて狭くなるため、各エリアの人口量の調整に貢献している。  
また、「賑やかなエリア」側は外の町と「面」で接するのに対し、「静かなエリア」は「点」で接するため、出入りする人の量や、街への表情の違いを生み出す。



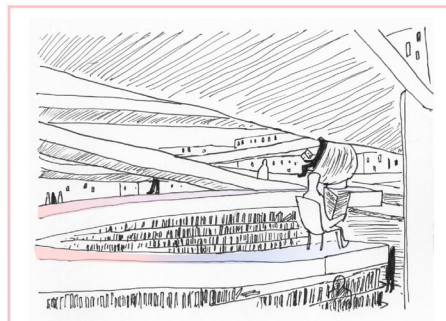
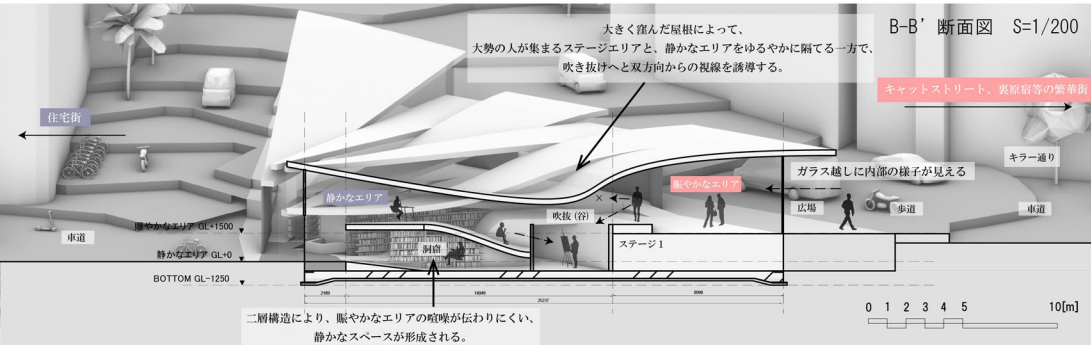
## V 10の帯が生む、段差を介した関係

10の「帯」は様々な段差を生むことで、段差を介した関係が生まれ、帯同士の環境がからまり、緩やかにつながっていく。



## VI 「渚」がつくる新しい境界

其々の帯は、ひとつひとつ異なる床断面と天井断面によって、二つの街を結び、新しい境界をこの地に形成する。その一例として下に「谷」の帯の断面を示した。



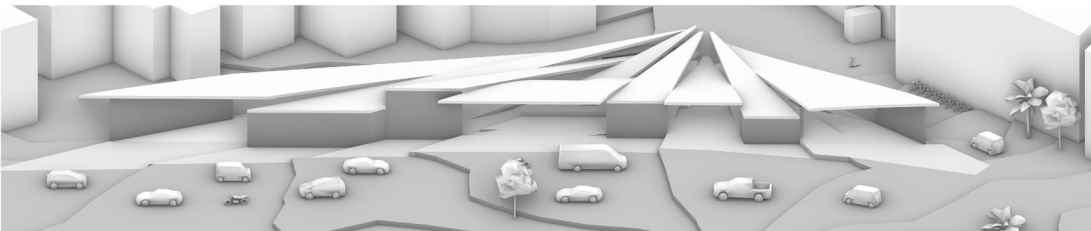
「静かなエリア」に近づくほど、「帯」同士の段差やずれが大きくなり、複雑に入り組んだ、プライベート性の高い空間が形成される。



左は「崖の帯」、右は「洞窟の帯」が並んでいる。書架が壁を形成し、其々の帯の独立性が高まっている。また「崖の帯」の頂上からは音楽が流れてくる。

### 外観アイソメ

キラー通り側に開放的な大窓を設けて内部の様子を見せたり、歩道と広場を一体化させたりすることで、大勢の人々を引き込み、賑やかな空間が形成されることを意図した。



「静かなエリア」には全ての「帯」が点に集まり、どこでもアクセスしやすい空間となっている。一方で、中心性が強く、人々が集まり過ぎてしまうのを防ぐため、廊下は狭く、また「帯」どうしの段差を設けている。



「賑やかなエリア」はラーニングcommons、イベントゾーン等のスペースが細長く連続しており、広く開放的な空間になっている。また、南側の広場とはガラス壁一枚で繋がっており、必要時にはそれらを開放して、広場にスペースを拡張できる。